

2022年3月期 第3四半期

決算概況

JKホールディングス(株) (9896)

代表取締役社長 青木 慶一郎



2022年2月21日



JK Holdings Co.,Ltd.

エグゼクティブサマリー

2022年3月期 第3四半期

業績

売上高 **2,797** 億円 前年同期比 **9.7%増** 

・売上高は2,797億38百万円（前年同期比9.7%増）であり、今期から導入している収益認識会計基準の影響を考慮すると、2,906億58百万円（同13.9%増）と2桁の増収となっています。

経常利益 **107** 億円 前年同期比 **173.6%増** 

・(株)キーテック山梨合板工場が順調に稼働率を上げていることや、量質両面にわたる仕入・販売のきめ細かいコントロールにより合板等素材商品を主体にグループ全体の粗利益率が向上しました。

親会社株主に帰属する
四半期純利益 **74** 億円 前年同期比 **213.9%増** 

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

通期計画

売上計画 **3,700** 億円 計画進捗 75.6%

経常利益計画 **115** 億円 計画進捗 93.4%

親会社株主に帰属する
当期純利益計画 **80** 億円 計画進捗 93.1%

配当

	2021年3月期 実績	2022年3月期 (予想)
中間配当	9 円	15 円
期末配当	10 円	15 円(予想)
年間配当	19 円	30 円(予想)

※2022/2/14に業績予想の上方修正を開示いたしました。

業界及び同業他社について

5ページ

JKホールディングス(株)について

9ページ

2022年3月期 第3四半期決算概要

13ページ

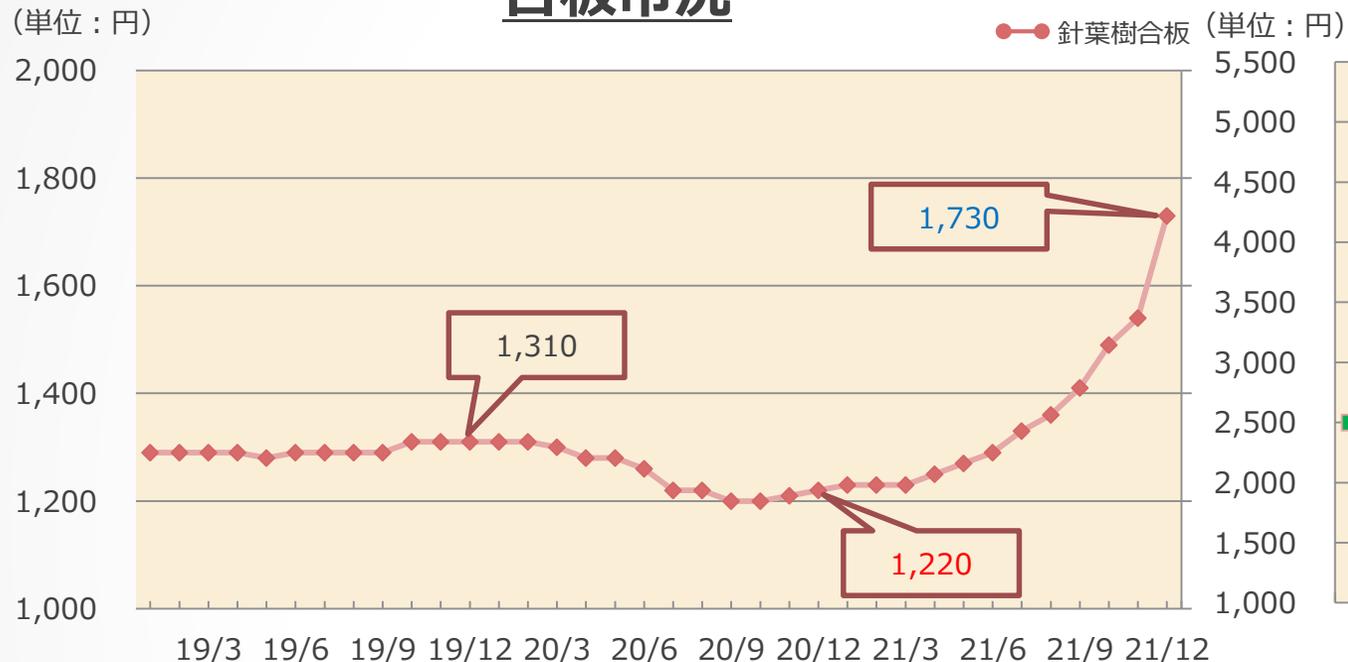
中長期経営計画について

18ページ

業界および同業他社について

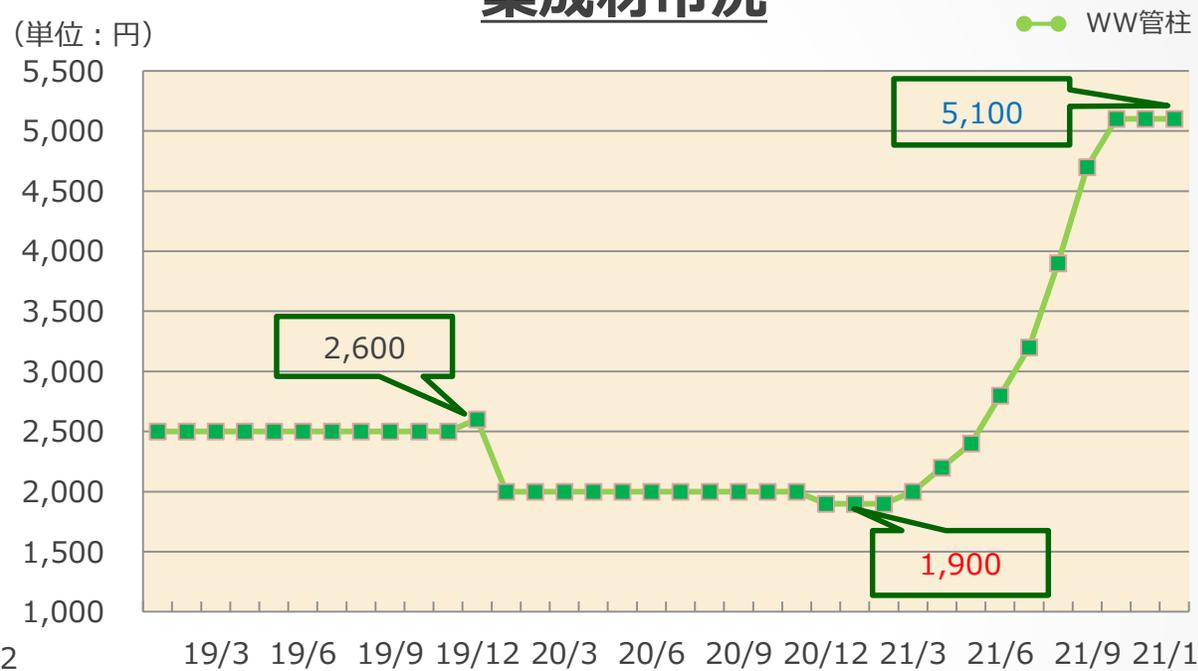
(1) 事業環境 - 合板・集成材市況と為替レート推移

合板市況



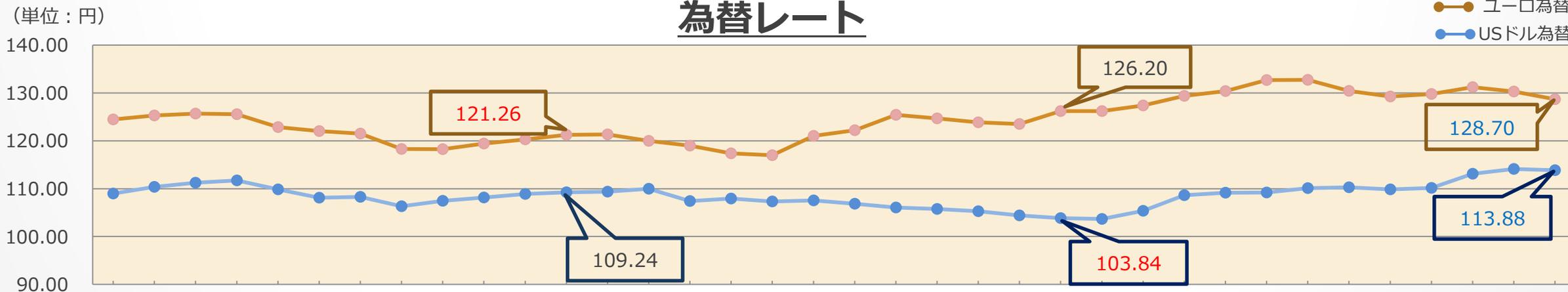
(注) 農林水産省統計 全国平均価格針葉樹合板 (厚1.2cm、幅91.0cm、長1.82m、1類)

集成材市況



(注) 農林水産省統計 全国平均価格ホワイトウッド集成管柱 (厚10.5cm、幅10.5cm、長2.98~3.0m、1等)

為替レート



(注) 三菱東京UFJ銀行 公表相場TTM

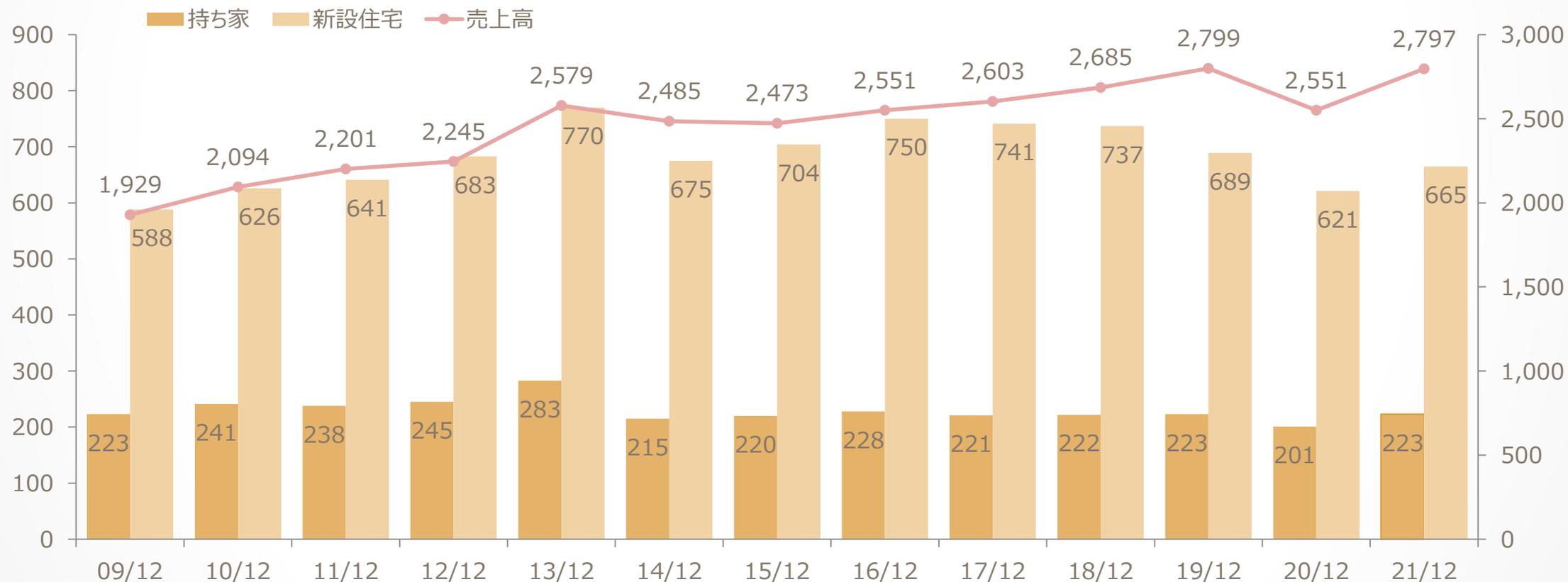
(2) 第3四半期 住宅着工戸数 推移

住宅着工

当社グループが主力とする持ち家は、新型コロナウイルス感染症の影響から営業がストップした前年同期比では11.2%の増加となっており、前々年同期と同水準まで回復しております。

(単位：千戸)

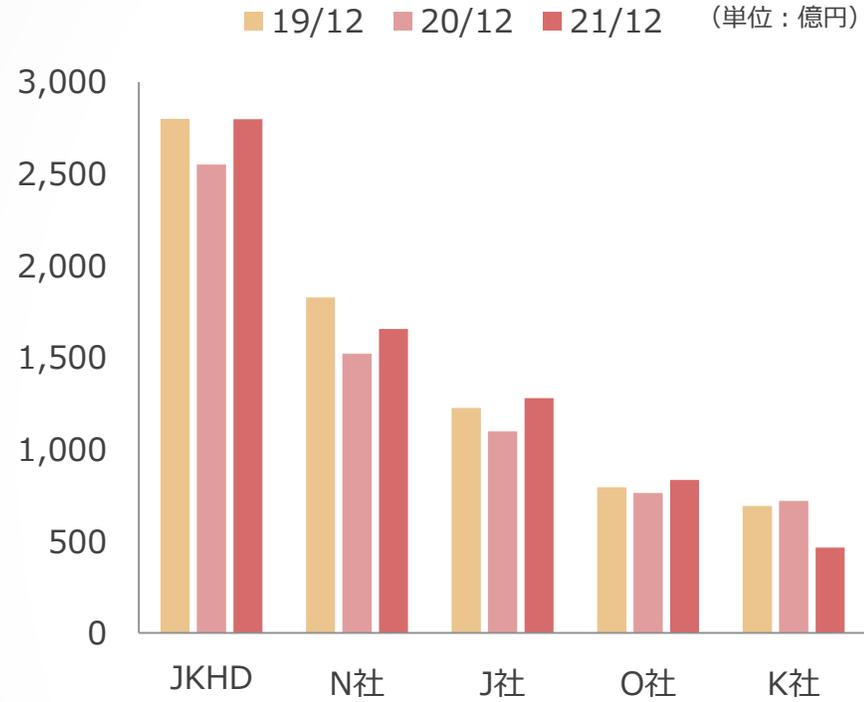
(単位：億円)



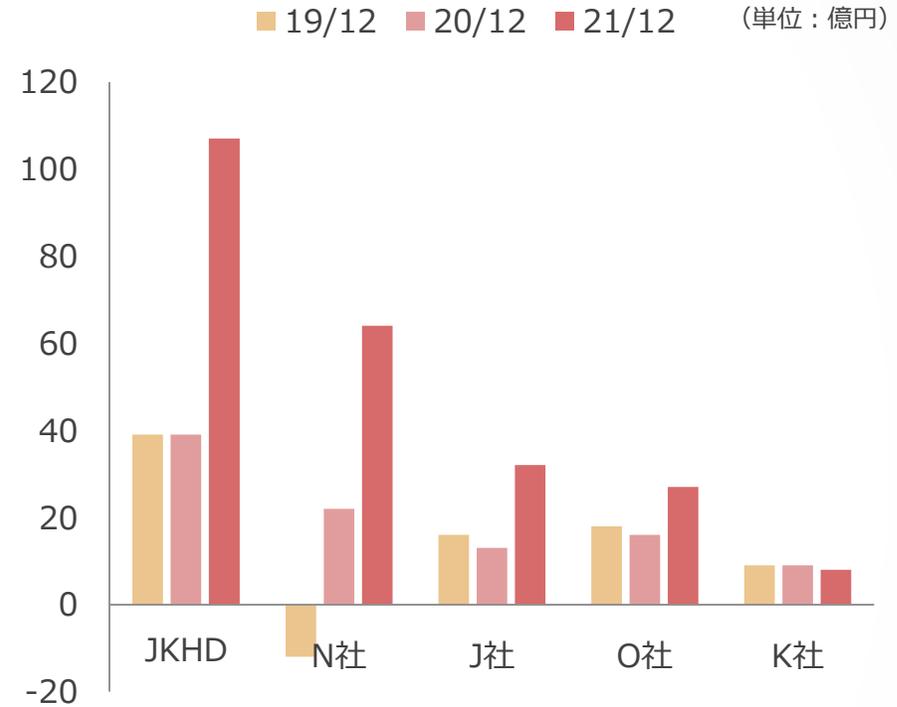
出典：住宅着工数 国土交通省 建築着工統計調査報告

(3) 同業他社との業績比較

■ 売上高



■ 経常利益



■ 前期比較

	JKHD	N社	J社	O社	K社
売上高	9.7%	8.9%	16.6%	9.2%	▲35.2%
経常利益	173.6%	191.1%	141.4%	74.3%	▲10.5%

J Kホールディングス(株)について

企業理念

「快適で豊かな住環境の創造」

当社グループは、住宅建築資材の流通業を主要事業とし、「快適で豊かな住環境の創造」という企業理念の下、より良い住宅資材を、適正価格で、お客様の要望される場所にお届けすることを目標に、営業活動を展開しております。

また、単にモノを販売するだけでなく、お客様に経営のノウハウを提供することで、お客様との共存共栄を図る仕組みづくりにも取り組んでおります。

基本情報（2021年12月31日現在）

商号	J Kホールディングス株式会社 (JK Holdings Co.,Ltd.)	創業	1937年10月
代表者	代表取締役社長 青木 慶一郎	所在地	東京都江東区新木場1-7-22
資本金	3,195百万円	事業の内容	① 総合建材卸売事業 13社 ② 合板製造・木材加工事業 9社 ③ 総合建材小売事業 22社 ④ その他 19社
従業員数	3,318名（連結）		



JK Holdings Co.,Ltd.

川上

素材調達
原木調達・植林



市場ニーズのフィードバック
持続可能な社会の実現

製造業
合板製造・LVL製造
・集成材製造

 **ジャパン建材株式会社**
 **通商株式会社**

卸売・小売
建築資材販売代理・物流機能
基礎資材、住宅設備機器販売

 **Bruce Home** JK HOME Co.,Ltd.
 **HOUSE DEPOT PARTNERS**
 **株式会社 ハウス・デポ・ジャパン**



川下

 **Butsurin**
 **KEY-TEC**
株式会社 キーテック

 **KEY-TEC**
株式会社 キーテック  **TIMBERAM**

**市場のニーズを踏まえた
建築資材供給**



建築・サポート
フラット35
住宅完成保証ハートシステム

(3) グループ企業一覧

純粋持株会社であるJKホールディングス(株)の下、住宅建材の「専門商社」であるジャパン建材(株)を中核会社として、住宅関連企業をグループ傘下に展開しています。



(2021年12月31日現在)



※赤文字は2022年3月期に新たにグループに加わった会社、青文字はグループ内組織再編を実施した会社です。

2022年3月期 第3四半期 決算概要

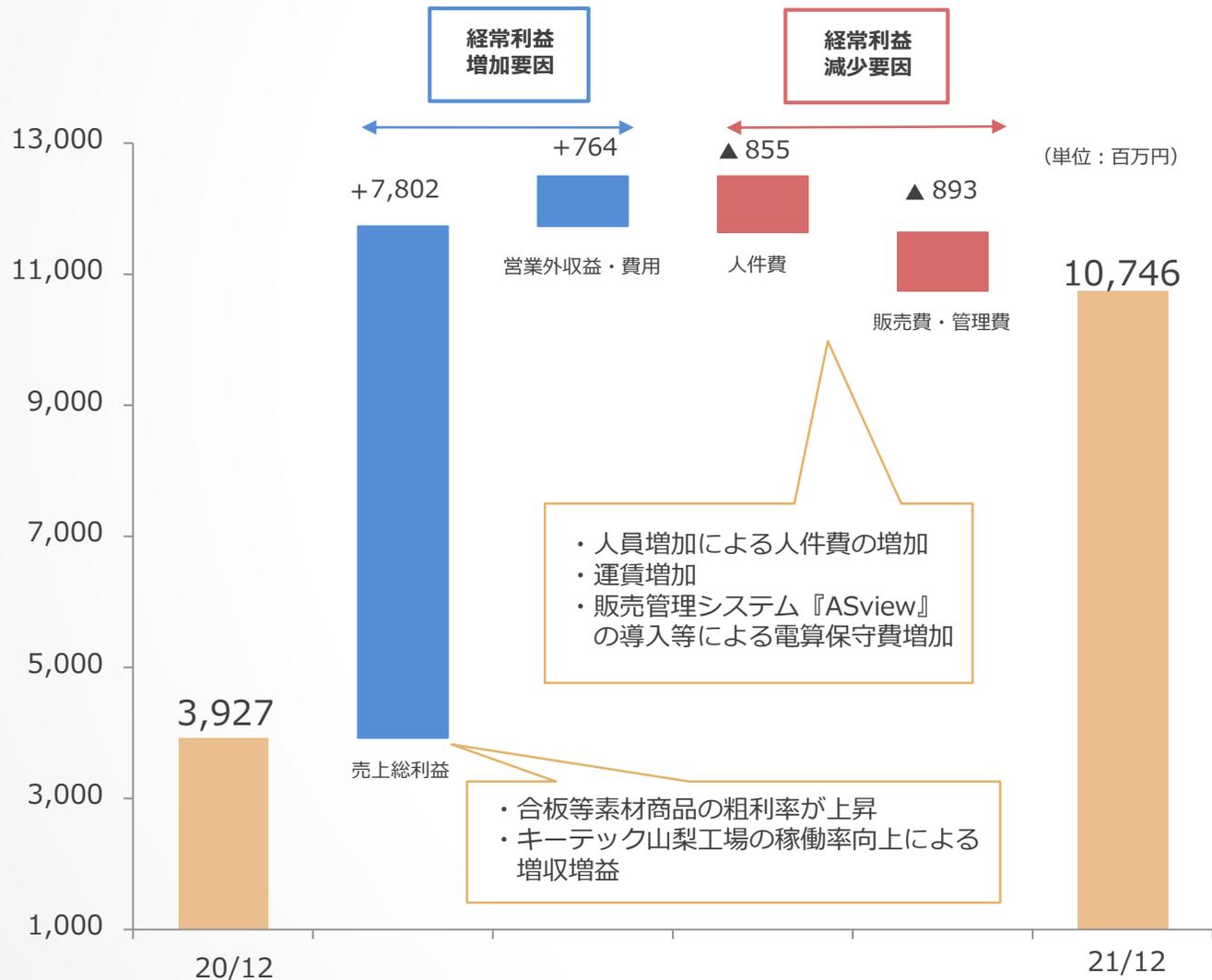
(1) 連結業績

(百万円)	2022年3月期	2021年12月期	2020年12月期	前年比 (%)	(参考数値)	(参考数値)
	通期計画(※)				2021年12月期 ※収益認識会計 基準適用前	前年比 (%)
売上高	370,000	279,738	255,118	9.7%	290,658	13.9%
売上総利益	—	35,299	27,497	28.4%	36,113	31.3%
(粗利率%)	—	12.6%	10.8%		12.4%	
販管費	—	25,185	23,435	7.5%	—	—
営業利益	11,000	10,114	4,061	149.0%	—	—
経常利益	11,500	10,746	3,927	173.6%	—	—
親会社に帰属する 四半期(当期)純利益	8,000	7,444	2,371	213.9%	—	—

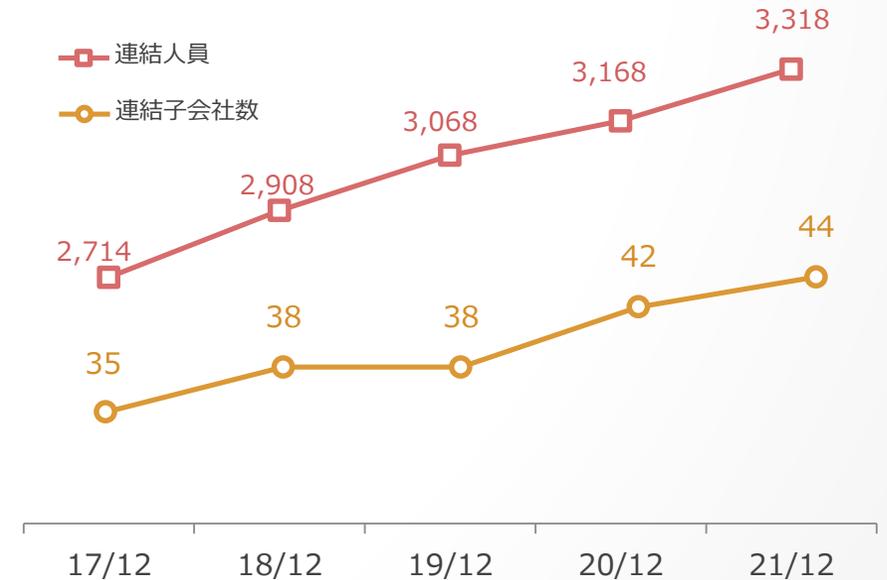
※2022/2/14に業績予想の上方修正を開示いたしました。

(2) 利益増減分析

連結経常利益増減



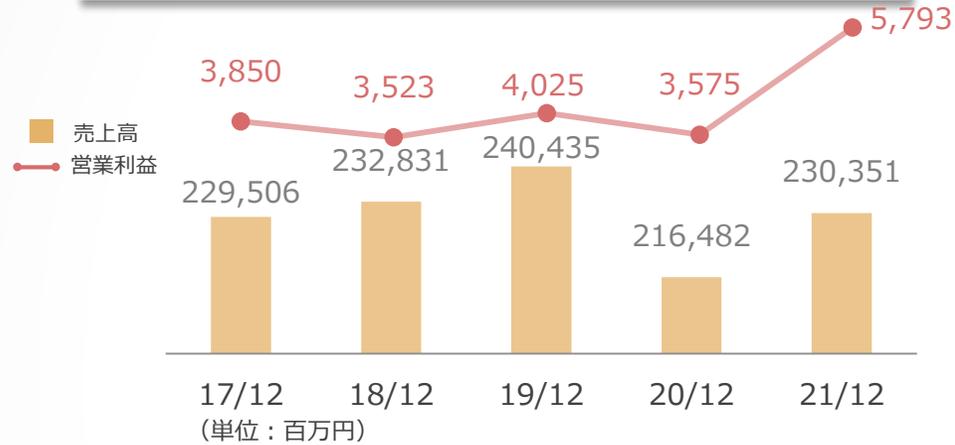
	主要販管費増減内訳		
	20/12	21/12	増減比率
人件費	13,763	14,618	6.2%
販売費	5,058	5,592	10.6%
管理費	4,613	4,974	7.8%
合計	23,435	25,185	7.5%



(3) 事業別の売上高・営業利益推移

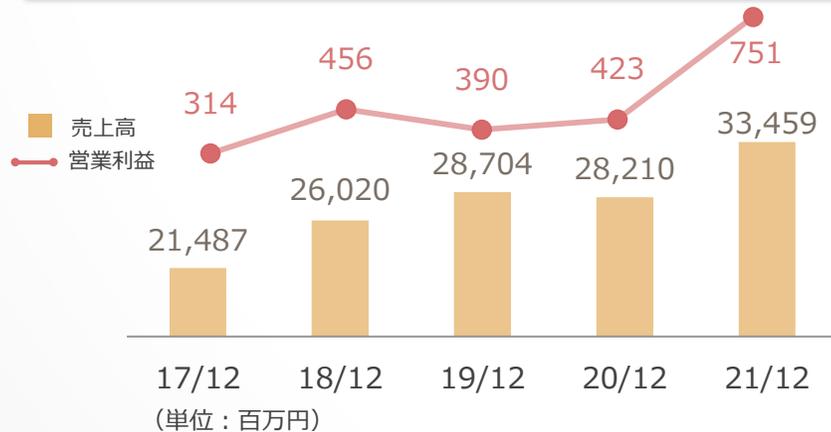
① 総合建材卸売事業

「ウッドショック」の影響から、特に合板等素材商品の調達面で十分な量の確保が難しい状況でしたが、取扱商品全般、特に合板等素材商品を主体に利益率は大きく改善しました。



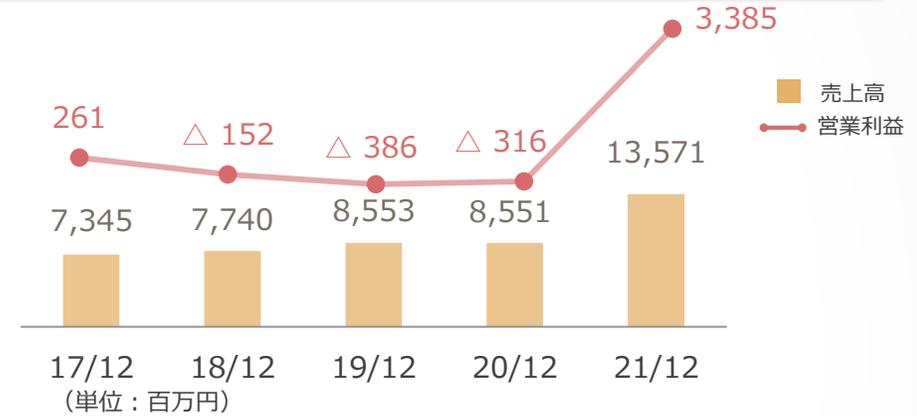
③ 総合建材小売事業

2021年9月にサッシ等の販売及び施工を手掛けるハラコートーヨ-住器(株) (現 (株)ハラコー) を新たに子会社化しました。業績は各社により若干のばらつきがありますが、総じて増収増益の傾向にあります。

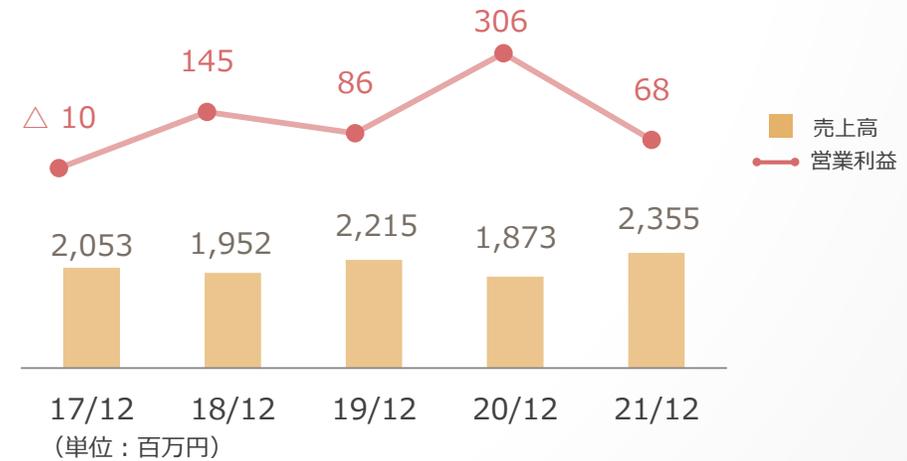


② 合板製造・木材加工事業

当事業の中核を占める(株)キーテックは、主力のキーラム (LVL) 事業が代替材としての需要拡大を受けたほか、一昨年稼働を開始した山梨合板工場の稼働率向上から増収増益となりました。また、その他の子会社のほとんどが黒字転換を伴う増収増益を果たしました。



④ その他



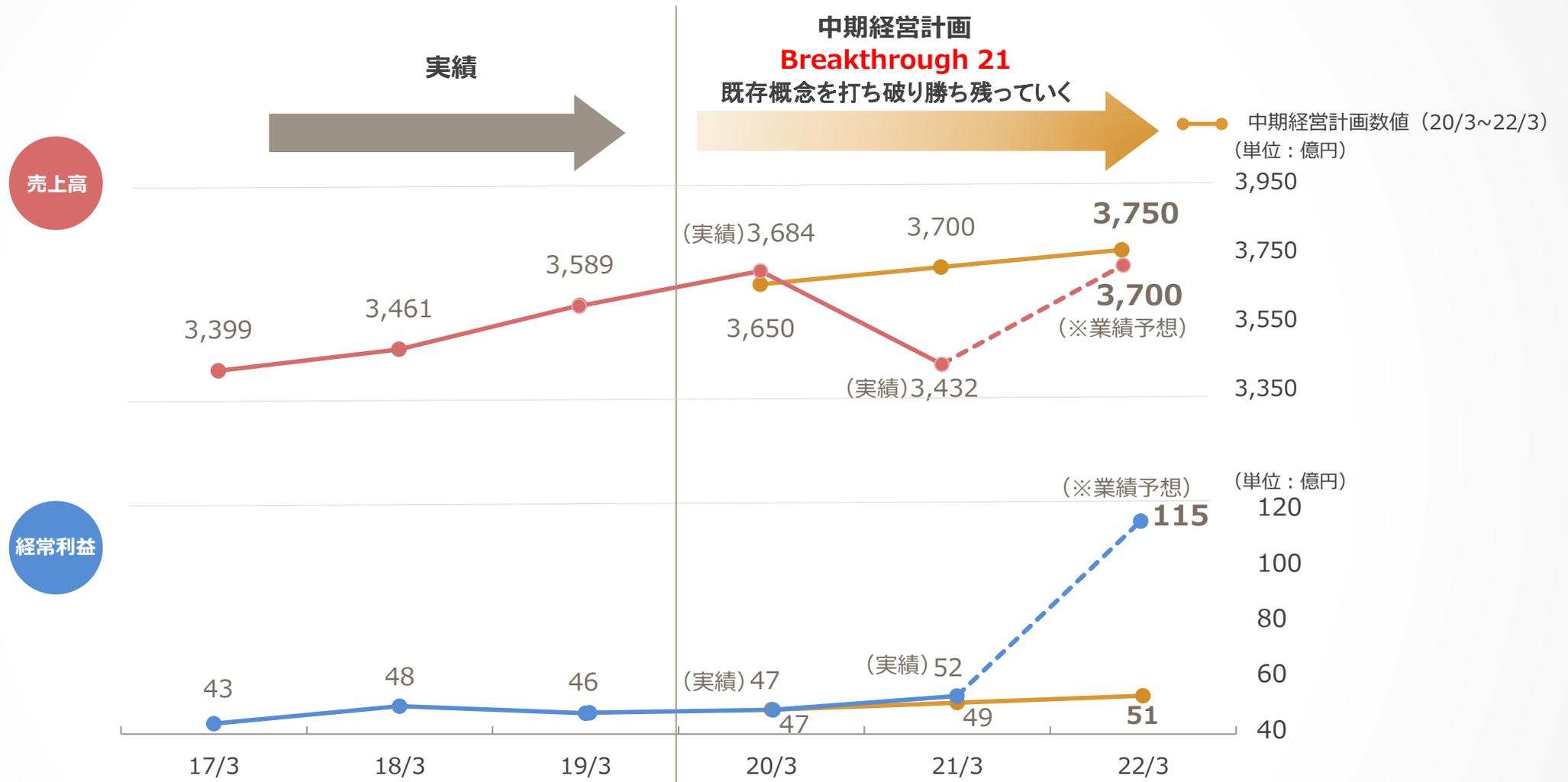
(4) バランスシートの状況

(百万円)	2021年3月期	2021年12月期	増減
資産	206,288	231,127	24,838
現金及び預金	36,481	43,789	7,307
売上債権及び契約資産	76,983 (※)	95,648	18,665
棚卸資産	19,709	18,432	▲ 1,276
固定資産	71,585	71,341	▲ 243
負債	161,112	179,114	18,001
仕入債務	96,905	119,461	22,555
その他	8,863	5,705	▲ 3,158
有利子負債	45,375	43,882	▲ 1,493
自己資本	43,732	50,433	6,701
その他有価証券評価差額金	1,594	1,458	▲ 135
(自己資本比率%)	21.2 %	21.8 %	

※前期の数値は、収益認識基準を適用前の為、売上債権の金額のみとなっております。

中長期経営計画について

(1) 中期目標 – 売上高と経常利益の見通し



「Breakthrough 21」 ～既存概念を打ち破り勝ち残っていく～



重点施策

- (株)キーテックが山梨合板工場を新設
- INTERRA Japan(株)を核に E C ビジネスを拡充
- パーク P F I ・ 公民連携への取り組み
- 材工一式販売、 P B 商品、 J K 木造建築グループ等付加価値部門の拡大

2019年度～2021年度の主な進捗状況

- (株)キーテック山梨合板工場稼働
 - 当初計画の月間生産量5,700m³を達成 (2021年12月生産量6,600.45m³)
- E C ビジネスの拡充
 - インターネットによるサッシ、エクステリアの製品等の施工販売を行うハッピーコーポレーション(株)の株式を取得
- パーク P F I 事業
 - 2019年8月より着工開始した豊洲ぐるり公園パークレストラン『キューイジーヌ フランセーズ ラチャンス』が2020年9月にオープン
 - P F I 事業第二弾となる多摩中央公園の事業者に選定
- 非住宅木構造事業の推進
 - 国内最大規模の木造3階建て流山市立おおぐろの森小学校が完成
 - 2022年4月開校を目指し、流山市立おおぐろの森中学校を建設中
- LogBuildへの出資
 - 工務店業務効率化支援を目的とし、スタートアップ企業への出資

※赤文字は2021年度の取り組み事項

「Breakthrough 21」 ～既存概念を打ち破り勝ち残っていく～



重点施策

- ジャパン建材(株)の機構改革
- 海外事業
- 建材小売子会社の再編
- システムインフラの整備
- 木質素材製造子会社の再編
- 業界再編への取り組み
- 働き方改革の実践と人材育成

2019年度～2021年度の主な進捗状況

- **ジャパン建材(株)の機構改革**
 - 大手ハウスメーカー、ビルダー向けの産業資材・特販と小売店向けのルートの事業分野別であった営業体制を地域別に再編成
- **木質素材製造子会社の再編**
 - 秋田グルーラム(株)と(株)MIYAMORIが合併し、ティンバラム(株)として、設計から施工まで一気通貫の請負体制『WS S (ウッドストラクチャーシステム)』を構築
- **業界再編への取り組み**
 - ハラコートーヨー住器(株) (現(株)ハラコー)、ハッピーコーポレーション(株)、(株)長谷川建材、(株)ティエフウッド、四辻製材(株)、井田商事(株)、京都板硝子(株)、(株)坂田建材の株式取得
 - (株)タムラ建材、土井住宅産業(株)の一部事業譲受
- **建材小売子会社の再編**
 - (株)ブルケン・マルタマおよび(株)ティエフウッド、(株)ハウス・デポ関西および四辻製材(株)のグループ内組織再編を実施
- **システムインフラの整備**
 - 仕入先と販売先を結ぶ販売管理システム『ASview』の導入

※赤文字は2021年度の取り組み事項

「Breakthrough 21」 ～既存概念を打ち破り勝ち残っていく～



重点施策

- 国産材有効活用への貢献
- 木材・合板博物館等への協賛
- I R、P Rの強化

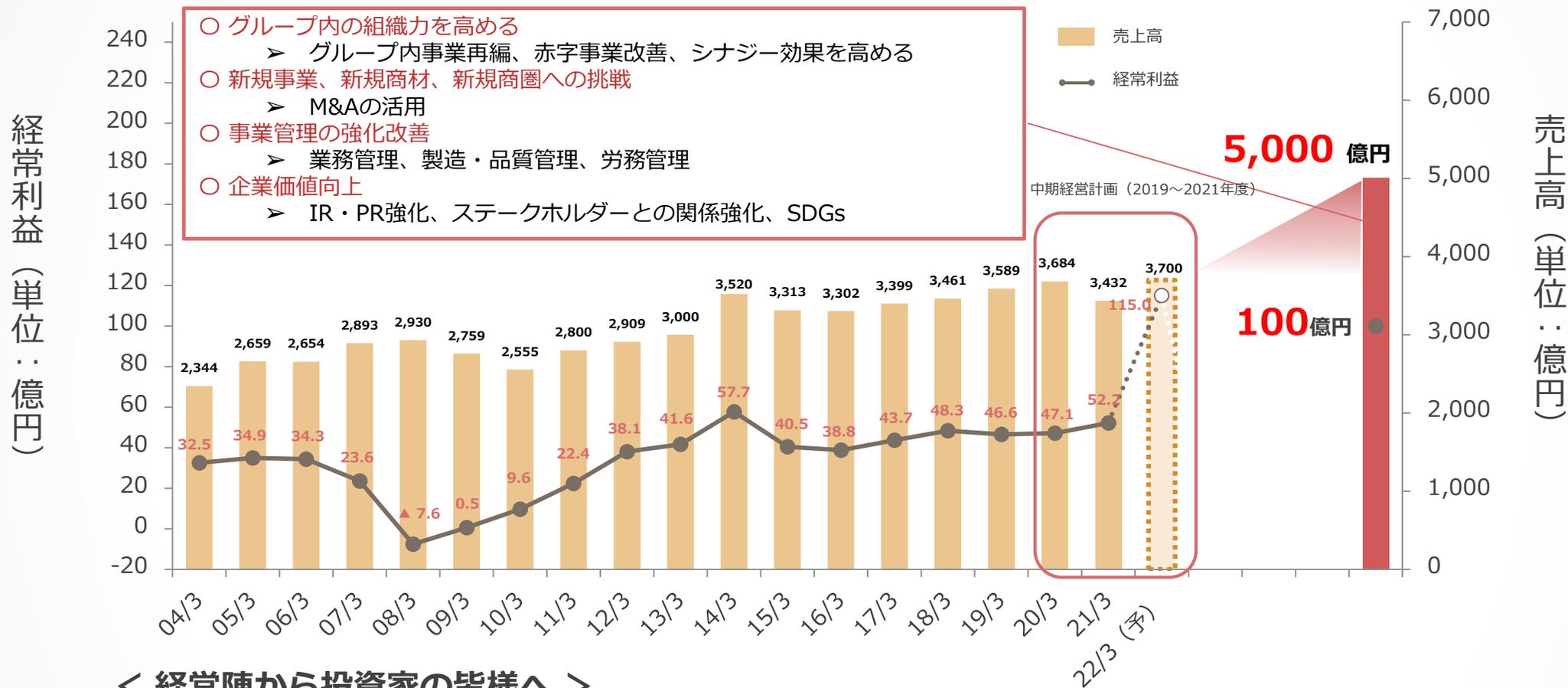
2019年度～2021年度の主な進捗状況

- 国産材有効活用への貢献
 - (株)キーテックの国産材消費割合が2018年上期の38%から2021年上期は65%に増加
山梨県産材を積極的に活用し、地産地消の取り組みを実施
- 環境配慮型プライベートブランド商品 J-Greenの普及
 - F S Cを取得した杉・カラマツのハイブリッド構造用合板の販売を開始
- J K H Dグループ各社 S D G sの取り組み強化
 - 物林(株)が『国産材を活用し日本の森林を守る運動推進協議会』より『日本の森林を守るため共に行動する企業』として認定
 - 屋内農園型障害者雇用サービス『I B U K I』を通じて、多種多様な人材が活躍できる環境を提供。専用ブースにて、従業員 8 名がハーブ栽培を実施
- 木材・合板博物館等への協賛
 - 同博物館では木材に関する資料や情報等を収集、保存、公開し、地球環境の保全や快適で豊かな暮らしの実現を目指すとともに、木材の持つ魅力と可能性を発信

※赤文字は2021年度の取り組み事項

(5) 長期経営目標

連結売上高5,000億円、連結経常利益100億円を目指す体制づくりへ



< 経営陣から投資家の皆様へ >

業界の変化に対応しつつ、企業価値の向上を目指します。
 創造性と挑戦心を持って、事業領域の拡大、深耕を進めていき、
 グループ企業の連携を深め、業界ダントツNO.1グループへと成長していきます。



JKホールディングス株式会社